



吉田地区 住民自治協議会だより

11号

キャッチフレーズ 「人の和と 地域の輪もて 我が吉田」

発行責任者 島田 光夫 編集 吉田地区住民自治協議会だより編集委員会
事務局住所 長野市吉田3-22-41 ノルテながの3F TEL 026-263-6224 FAX 026-266-0371

元気なまちづくり

市民会議開催

平成二十四年度「吉田地区元気なまちづくり市民会議」が、一〇月十三日(土)に一六七名の住民の方が参加され開催されました。

はじめに鷺澤市長より「市役所第一庁舎及び長野市民会館の建設」と「子育て・子育て環境の整備と魅力ある教育の推進」についての講演がありました。

続いて自由討議にはいり、現在改築中の吉田小学校体育館での「放課後子どもプラン」実施計画の内容についての提案があり、これについては現在の施設との併用を考えているとの回答がありました。

次に「高齢者の交通手段の確保」で、現在のぐるりん号の運行ルート変更について提案がありました。市側からは、時間的な問題や便数減のほか他地区との協議が必要であり、当面は現行どおりで対応して行きたいとの説明となりました。

また、「車椅子専用タクシーの利便性向上」と「福祉移送サービス」に関しては、民業圧迫や許認可の問題等があり現状困難との説明でしたが「福祉移送サービス」については含みを残しました。「子育て支援事業」では、「地域子育て支援センター」や「子ども広場」で行っている育児子育て相談等のほか「遊びと交流の場」の利用促進についての説明がありました。



議長 島田会長

最後に「市有地の有効活用について、旧吉田交番跡地を利用したごみ集積所の確保と公園としての提案があり、ごみ集積所としての活用については実施予定であり、公園設備は長野市で進めている地域の公園として基準面積に満たないため、近隣の辰巳公園を利用して欲しい旨の説明があり、本年度の市民会議は終了しました。



鷺澤市長





吉田地区住民自治協議会

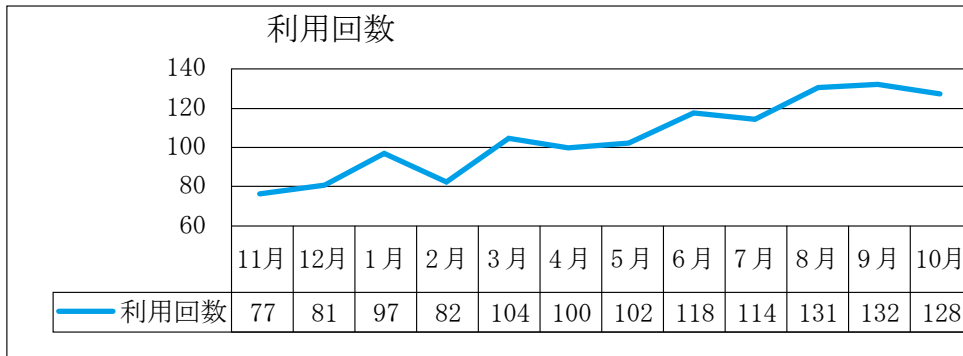
福祉自動車 大いちょう号



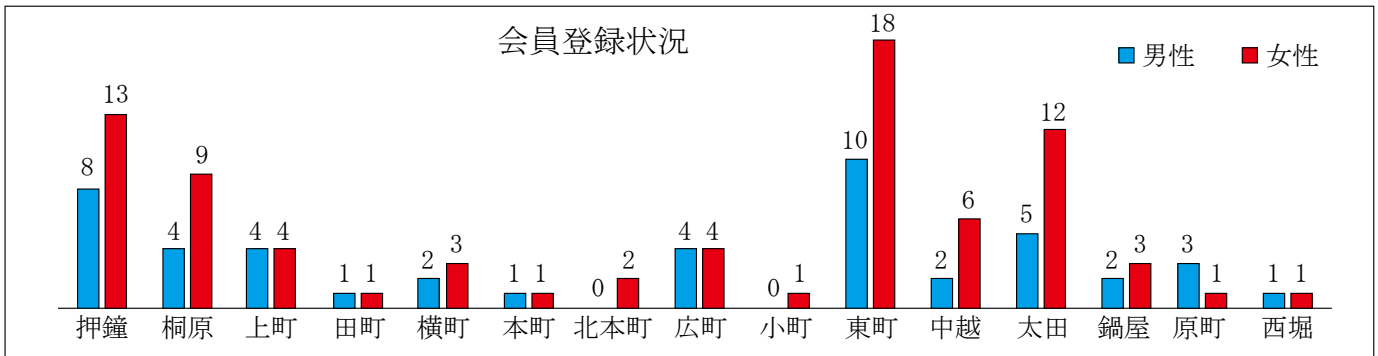
運行を開始してから一年が過ぎました。地域の皆様のご理解とご協力に御礼申し上げます。

昨年11月より、運行を開始し、地域の方々に大変好評をいただいております。ご利用の皆様には、通院日や診察時間が集中するため、変更やご迷惑をおかけすることもあります。今後はできるだけご希望に添えるよう調整をしていきたいと思っております。また、ご利用についてのご相談もお受けしております。これからもよろしくお願いいたします。

さて、一年が過ぎましたので、利用状況や運営費についてお知らせいたします。



運行日数 220日
 走行距離 約11,000km
 おもな利用施設
 長野市民病院
 長野中央病院
 長野赤十字病院等
 会員登録 126名
 (平成24年10月末現在)



《24年度運営費について》

収入については、長野市社会福祉協議会から358,000円（運行費、通信費、事務費）の補助金と吉田地区住民自治協議会から300,000円の助成金、一回600円の利用料から100円を運営活動費としていただき、これらを主な収入源としています。

支出については、通信費（固定電話、携帯電話）、保険料、燃料費が主です。ガソリン価格の変動や、利用者が増えてきたことにより燃料費が増加傾向にあり、大きなウエイトを占めています。今後、円滑な運営をするために、安定した財源が必要ではないかと考えています。

つきましては、賛助会費にご協力をお願いいたします。

福祉自動車の運営に賛同する方で、会費は一口1,000円からとなっておりますが、運営費として活用させていただきますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

お問合せ・お申込み 吉田地区住民自治協議会事務局 電話：263-6224 担当：石巻

福祉自動車に関するお問合せは・・・ コーディネーター 薩田（不在時は福祉ワーカー石巻）
 電話 263-6224（月曜日から金曜日 午前9時～午後5時まで）

育成会委員会

ドッジボール大会

9月20日(日)

吉田小学校体育館にて



ドッジボール大会

男子

- 優勝 南堀西部チーム
- 準優勝 北本町・小町・田町チーム
- 3位 広町ワイルドだぜえチーム
- 4位 鍋屋・本町・上町チーム

女子

- 優勝 中越女子Aチーム
- 準優勝 東町チーム
- 3位 広町オレンジガールズチーム
- 4位 中越女子Bチーム

低学年風船バレーボール大会

9月22日(土) 運動公園体育館にて



低学年風船バレーボール大会

- A リーグ優勝 上町チーム
- B リーグ優勝 広町レインボーチーム
- C リーグ優勝 太田レッドチーム
- D リーグ優勝 南堀Bチーム

- 太田ブルーチーム



人権・同和教育委員会

『研修』は人の心を開く

「吉田地区人権を認め合う住民の集い」は、11月13日(火) 吉田小学校で、元県教育委員会教学指導課心の支援室長町田暁世先生から、「人の価値は態度で決まる」と言うテーマで講演をしていただきました。なるほどと思うところがたくさんあり、吉田町の人権教育にまた一つ大きな財産が出来たような気がしました。

また、先生の話術にはまり、どんどんお話に引き込まれてしまいました。町田先生に感謝すると共に、吉田町の皆さんの毎日の生活に生かされることを願ってやみません。

次に、吉田地区人権同和教育研究会の研修会報告をします。今年は、埼玉県狭山市へ「狭山事件」石川一雄さんは無実だ」について現地研修をして来ました。その事件現場となった場所を歩き、説明を聞くことによって、より理解を深めることが出来、現地研修の大切さを痛感して来ました。

公民館委員会

初めての試み大成功！ 晴天祈る

第86回吉田町民大運動会は、9月30日(日)、長野運動公園運動広場で行いました。

当日、台風の影響で、種目を減らして実施しましたが、吉田小学校で行う運動会と同じく、会場の雰囲気や各競技の熱戦は、出場選手と応援する皆さんが一体になって盛り上がった運動会が出来ました。優勝並びに成績の良かった地区の皆さん、おめでとうございます。

最後に、今回の運動会は、地区の皆さんのご理解とご協力のお陰と、公民館委員会役員の皆さんが、土曜日、万障差し繰って一日掛けて準備をして頂いたお陰です。心から感謝を申し上げますと同時に、皆さんの使命感に頭が下がりました。



まだまだパワーあるぜ 「百足競争」



事件現場から学ぶ

防災訓練の実施

防災・防犯委員会

10月6日(土) 吉田全地区より90名の方々が参加し、防災訓練が行われました。

会場となった辰巳公園では、情報伝達訓練、長野消防局若槻分署による避難、救出救護、消火訓練、長野第八分団による放水体験など、参加者全員が実践できるように計画されました。



無線機による情報伝達訓練

防災対策本部と各地区防災会との無線機による情報伝達訓練では、各地区住民の避難状況や町内被災状況等明確な報告内容の大切さと、本部での全体集約記録時の役割分担の必要性を確認しました。
スモークマシーンによる煙道を使

用した煙内の避難体験では、災害時の身の守り方を訓練する事が出来ました。



スモークマシーン
煙道を使用した煙内の避難体験

東日本大震災後の意識調査によると「強く意識するようになった事は何か」の質問に「家族、親族との絆」の次に「地域の連帯」の回答が多く「共助」の大切さが浮き彫りになったと言われています。地域の中で隣近所、商店街、地元企業など「知っている」というだけでも災害時には信頼や安心につながると思います。

今後、吉田地区自主防災会連絡協議会では、この防災訓練が「地域を知る場」となるよう、様々な団体と連携し充実を図るとともに、吉田地区防災マップ作成など、防災減災のまちづくりを推進してまいります。

お知らせ

育成委員会

クリスマスフェスティバル

【日時】平成24年12月23日(日)

【会場】ノルテナがの多目的ホール

公民館委員会

吉田地区成人式

【日時】平成25年1月6日(日)

11時から

【会場】ノルテナがの多目的ホール
保護者の方もお出かけ下さい。

吉田地区新年交歓会

【日時】平成25年1月6日(日)

12時30分から

【会場】東急ライフ3階
会費3千円(詳細は回覧にて)

保健委員会

健康食講習会 好評につき再度開催

【日時】1月23日(水)

(詳細は回覧にて)

心をやまいと健康食の学習会

【日時】2月27日(水)

(詳細は回覧にて)

青少年委員会

第25回吉田町青少年健全育成住民の集い

【日時】平成25年1月27日(日)

【会場】ノルテナがの多目的ホール
(詳細は回覧にて)

人権・同和教育委員会

人権同和教育推進の集い

【日時】平成25年2月23日(土)

13時30分から講演会

【会場】吉田公民館大教室
(詳細は回覧にて)

福祉委員会

10月20日(土)開催の福祉バザーにご協力ありがとうございました。

事務局長 就任挨拶

上原 健次



この度、吉田地区住民自治協議会事務局長に就任しました。吉田東町区の上原と申します。

吉田地区発展のために、自治協の業務にあたらせていただくことになりました。

微力ではありますが、地区の皆様の未来が、希望と夢に満ちたものとなりますよう、精一杯頑張りたいと思っております。

どうぞよろしく、ご指導とご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

編集後記

木枯が吹き、暖房の恋しい季節となりました。

晴れ渡った青空を見ると、吉田は良い所「吉田が一番」とつくづく思います。

ご協力に感謝いたします。次号にご期待下さい。
(編集委員会一同)